

嬉野小学校学校訪問記

H 2 2 . 1 2 . 6

藤津教育事務所 橋本 良子

笑顔いっぱい授業研究会

2年2組の国語の授業を参観させていただきました。「名前をみてちょうだい」の物語文を読んで、登場人物の気持ちを考える学習でした。場面の様子に変化したり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握した上で、その様子を想像しながら気持ちを考えさせる授業展開でした。挿絵を使っの音読、対話活動など手だてがたくさんありました。



子どもたちは、スクリーンいっぱいの挿絵を食い入るように見ていました。

「うわー！大きー！」

「大男のえっちゃんにおじぎしよんしゃっごたっ。」

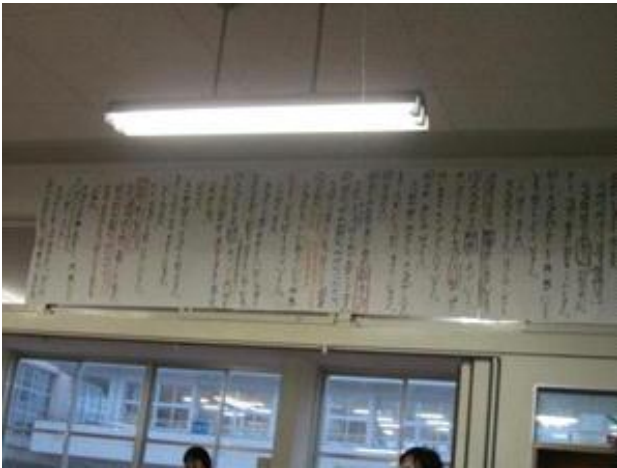
お話の中にどっぷりひたっていました。



「聞いてください。」

発言する子が言うと、全員が発言する子の方を体ごと向いて、友達の考えを聞きます。

嬉野小学校の目玉の活動「お茶タイム」（対話活動）での話型が活用できています。



黒板には本時場面の本文が、教室壁面には前時までの学習の足跡となる教材文が掲示されています。「後ずさり」「風のように」「たたみのような手のひら」「みぶるい」など言葉に着目して考えることができます。場面や行動の変化もしっかりとらえています。



嬉野小学校の校内研究のスタイルは、子どもたちと同じように対話活動を取り入れたものです。

今回もグループごとによかったところと今後の課題の二つについて意見交換をした後、全体での報告、話し合いへと進みました。

子どもたちのいい表情がたくさん見られたこと、全員がしっかり考えていたこと、つぶやきの発想のすばらしさなどいいところがたくさん出されました。

一方で、めあてと対話題とのつながり、子どもたちの思考のつながりなど今後の課題についても活発な意見が出されました。

先生方の雰囲気がよく、子どもたち同様、笑顔いっぱいの研究会でした。

講師である佐賀大学附属小学校の橋本幸雄教頭先生が、「子どもたちのつぶやきは、授業のねらいをとらえた魅力満載の内容だった。」というお話をされました。豊かに考えることができる子どもたちの姿は、すばらしいと思いました。つぶやき名人の子どもたち、これまでの積み重ねの成果だろうと感じました。「いま」「ここに」生きる子どもたちの学びに、柔軟に応じる授業力アップをめざした提案授業だったように思います。ありがとうございました。